

令和3年度 第3回社会教育委員会議

日時 令和4年1月18日(火) 10:00~12:00
場所 北九州市立生涯学習総合センター2階
第2・3研修室

1 市民文化スポーツ局局长挨拶

2 議題

(1) 今期の社会教育委員会議の協議テーマについて(最終案) [資料1]

(2) 協議テーマに関する意見交換

「“学びと活動の場”からつながる地域づくり・人づくりについて」

ア 市民センターについて [資料2]

イ 実施事例発表 [資料3]

① 「防災の取り組みを通じた地域づくり・人づくり」(平野市民センター)

② 「子どもの体験活動や世代間交流の取り組みを通じた人づくり・

つながりづくり」(足原市民センター)

ウ グループワーク

エ まとめ

資料1

協議テーマについて

最 終 案

今期の社会教育委員会議の協議テーマについて

“学びと活動の環”からつながる地域づくり・人づくり

～SDGsの達成を目指して～

選定理由・ねらい

- 少子高齢化や人口減少の進行、急速な社会環境の変化の中、持続可能な地域づくりを進めるため、住民主体で地域課題に取り組むことが期待され、社会教育・生涯学習を通じた「地域づくり・人づくり」が必要とされている。

- そのためには、本市が令和3年度に策定した「北九州市生涯学習推進計画《“学びと活動の環”推進プラン》」の施策について、具体的な取組み事例を踏まえて考察し、計画を推進していく必要がある。

- そこで、社会教育委員の方々からの意見等をもとに、
 - ① 子どもの健全育成・体験活動
 - ② 地域防災力の向上(危機管理)
 - ③ 地域の健康増進
 - ④ **デジタル化への対応**に関する取組みを取り上げ、本市における「地域づくり・人づくり」に必要とされること等について、新たな視点から提言していただく。

- 生涯学習推進計画の具体的な施策・取組みは、2015年9月に国連サミットで採択されたSDGsにつながっている。各ゴールの視点から現在の取組みを見直すことにより、SDGsの達成を目指すもの。

【参考】

令和3年度 第2回社会教育委員会議（11月9日）
（主な委員意見）

議題（ウ）社会教育委員会議の協議テーマについて

委員：デジタル化が今後かなり求められてくると思う。特に高齢者など、使いこなせないと情報の格差や、取り残されていく場合があるので、市民センターで学びなどが進められないかと考えている。協議テーマとしてデジタル化への対応が必要ではないか。

委員：デジタルの問題やDXの問題は、日本全体、非常に遅れが激しいということで、特に子どもたちに興味を持たせるというのは大事だろう。当然、何らかの形で入れ込んだほうがいいのではないか。

委員：デジタルを通じた情報提供のあり方というものが大事ではないか。危機管理という観点からもデジタルを絡めて、正確な情報を、いかに早く、市民の皆さんに伝えるきっかけにできるような環境づくりというものを、ぜひ取り組んでいけたらと思う。

委員：このテーマ（デジタル化）が今後の1つの大きな核になるであろうというのは、非常に共感する。何らかのアイデアを出すというプラスの意見を皆さんが出せるということであれば、協議テーマにしかるべきと思う。

議長：デジタル化の問題や情報の格差をどうするか。ただ、社会教育の今回のテーマは、もう少し、社会教育としてどういったことを目標にするか、ということではないか。文部科学省では、「人づくり・地域づくり」をテーマにしており、デジタル化、情報の問題というのは、そういった大きな社会教育としての目標に、どのように取り込んでいったらいいのかという方法論になるかと思っている。

事務局案として提案させていただいた「“学びと活動の環”からつながる地域づくり・人づくり～SDGsの達成を目指して～」を基本にして、ご意見を踏まえて追加するかどうかを検討させていただきたい。

委員：今回の新たな試みとして、それぞれの具体的な取組みを検証していきながら、より具体的に話をしていくという方向性が出ているのは、非常に素晴らしいことではないか。

資料2

市民センターについて

市民センターについて

1 市民センターの機能について

本市では令和3年4月現在、市民センターは130館（サブセンター6館）あり、生涯学習に関する講座や教室等の事業の開催、地域の団体への貸館、文化祭などの交流活動を行い、地域住民にとって最も身近な学習施設である。また、運営を委託しているまちづくり協議会をはじめ、自治会等地域団体や学校とも密接につながっており、地域づくりの重要な拠点施設となっている。

2 市民センターの生涯学習事業について

現在、市民センターで実施している生涯学習事業

(1)	生涯学習市民講座
(2)	学習情報の提供（市民センターだより）
(3)	文化祭の開催
(4)	市民センタークラブの育成
(5)	家庭教育学級
(6)	人権教育
(7)	青少年関連事業

3 生涯学習市民講座について

子どもから大人まで多様な要素を持つ地域の方が、地域課題や社会的課題等の解決を目指す講座、社会貢献活動につながる講座、生きがいづくりを目指す講座など、幅広い分野にわたる講座を学び、そこから得た知識や技術等を個人レベルに留めず家庭・地域・団体活動などに活かしていくよう、年間3講座以上（1講座3回以上、但し4講座目からは1回でも可）の講座を実施する。

《参考》

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
生涯学習市民講座参加者数	85,864人	84,426人	130,619人	124,765人	44,429人
市民センターでの子ども交流事業や体験活動事業への参加者数	54,254人	53,080人	(56,563人)	(55,370人)	(14,390人)

※平成30年度以降の市民講座参加者数は、事業の統合により、子ども交流事業の参加者数を含む。

4 地域で育もう「未来の種」事業について

(1) 地域で育もう「未来の種」事業

ア 目的

現在、少子化や地域コミュニティ意識の希薄化などにより、子ども会活動をはじめ地域における子どもの活動は全体的に低迷している。

そのため、

- (ア) 子どもたちに豊かな人間性を育み、自ら学び、自ら考える「生きる力」の基盤をつくり、子どもの成長につなげる。
- (イ) 地域づくりの未来の担い手である子どもたちの育ちを地域で支えることで、地域の活性化につなげる。

イ 具体的な実施内容

市民センターを主体とし、地域団体、子育て支援団体、NPO、企業などのノウハウを活用し、地域全体で子どもたちの健全な発達・育成を促す世代間交流・異学年交流等につながる体験活動を実施している。

地域団体・NPO等との協働・連携により、例えば、「校歌」を学習媒体にした世代間交流や、「環境」を重視したまちづくり構想の取り組みを体験する活動など、市民センターだけでは思いつかなかった様々な取り組みが実施できている。

	内 容
実施主体	市民センター、地域団体（まちづくり協議会等）
コーディネーター	子育て支援団体、NPO、企業など （事業全体のテーマ、企画及び内容の策定等）
実施館数	17館（各区2館程度。予算編成時は14館を予定）
令和3年度予算額	2,000千円（1館あたり142千円）

【参考】市民還元事業

本市の市民太陽光発電所特別会計（港湾空港局）では、市制50周年記念事業として建設した「市民太陽光発電所」の売電収入の一部を活用して、市民生活の向上に繋がる「市民還元事業」を実施している。

令和3年度市民還元事業に生涯学習課が「地域で育もう未来の種事業」を応募し、選定決定されたものである。

【事業期間】

- 原則、単年度で終了する事業。
- 同じ事業を継続して選定するのは、原則3年まで。

5 市民センターの活動にかかわる主な人材について

	補 職	役割・位置付け
1	市民センター館長	<ul style="list-style-type: none"> ・市民センターの管理・運営の総括 ・まちづくり協議会との調整及び施設運営 ・地域団体との連絡調整 ・行政機関との連絡調整 ・各種事業の実施(生涯学習など) <p>⇒地域活動の拠点となる施設運営</p>
2	まちづくり協議会会長・役員 市民センター職員など	<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくり協議会の統括・運営 ・住民主体の地域づくり活動 ・市民センターの日常的な管理運営(市から受託) ・地域の様々な団体との調整 <p>⇒地域の特性や課題に応じた、地域づくり</p>
3	生涯学習推進コーディネーター	<ul style="list-style-type: none"> ・市民センター館長からの推薦により、各市民センターに配置するボランティア ・市民センター等での生涯学習事業の企画・運営への参画 ・地域住民からの学習相談への助言 ・館報作成等の広報活動 <p>⇒地域との橋渡しによる、地域の活動支援</p>
4	地域・人づくりアドバイザー (社会教育主事)	<ul style="list-style-type: none"> ・社会教育主事の資格保持者、社会教育主事講習を修了した人などで、各区役所コミュニティ支援課、生涯学習総合センター等へ配置 ・生涯学習活動支援・振興 ・社会教育を行う者への専門的、技術的な指導・助言 ・市または区における生涯学習に関する事業の企画立案・実施 ・地域振興活動の支援 <p>⇒地域や市民センターへの生涯学習・地域づくり支援</p>

※他に子育てサポーターを配置：市民センターのフリースペース等において、子どもの見守りや子育て支援に関する事業の企画・運営に携わっている。

資料3

事例発表①・②



「平野地区みんなで取り組む防災」 ～大雨災害での犠牲者をゼロに！～

北九州市立 平野市民センター
館長 伊藤 須美子

1 地域の概要

前田第3自治区会と第4自治区会の二つの自治区会から構成され、共に高齢化が進む中、美化・防犯防災活動や世代間交流を積極的に取り組み、安全・安心で暮らせる地域を目指している。高齢化率は42.4%である。

2 活動内容

◇事業名 平野地区みんなで取り組む防災

◇事業の目的

近年自然災害が激しさを増し、全国的に地域での「共助」が重視されるなか、さらなる地域防災力の向上を目的とする。また、防災対策を切り口に地域コミュニティの更なる活性化を図っていく。

◇事業実施団体

平野まちづくり協議会、前田第3第4自治区会、前田第3・4区社会福祉協議会、民生委員児童委員協議会、平野市民センター

◇実施にいたる経緯

高齢者や一人暮らしの多いこの地域は土砂災害警戒区域として指定された地域も多い。昨今の地球温暖化・線状降水帯による集中豪雨・台風被害等のニュースを目にするたびに、いつどこで起こるか分からない災害に住民の危機意識が高まってきた。

◇実施プログラム

①平成30年

北九州市危機管理室支援事業「地区 Bousai 会議」に応募し、平野地区で「大雨災害での犠牲者をゼロに！」をスローガンに、地域と共に地区防災計画に取り組んだ。全5回の日程で実施。

〈講師〉「NPO法人好きっちゃ北九州」の入門真生氏・藤谷真利子氏。

第1回会議〈このまちで生き、この町と向き合う〉

第2回会議〈人間は一人では逃げられない？〉

住民の皆さんで今の思いや疑問、課題を話し合い大雨災害対策へのはじめの一步を踏み出した。

第3回訓練〈みんなのために情報を伝達する〉

70名が参加。命を守るためにはどうしたらいいのか、実際に情報の伝達、連絡方法などの訓練をした。この年の7月6日に平野川が昭和28年6月28日の大水害以来65年振りに氾濫したことが、住民の意識を高めた。また、地域住民の出演により作成された「伝達・連絡方法DVD」を放映し、顔なじみのお隣さんが出演することにより住民の関心を湧き起こした。

町内会で立地条件は異なっているため、各町内会に別れて独自のルールを話し合った。最後に水を注ぐだけで食べられる非常食のアルファ化米で作ったカレーライスを食べすなど貴重な体験であったとの高評価で訓練を終了した。



＜ 花尾小学校体育館での合同訓練 ＞

第4回会議〈いつ・どこに逃げ、身を守るのか〉第5回会議〈『平野地区防災計画』を作る！〉

住民たちで話し合った結果をまとめた「行動計画書」を作成。各町内会が保管する。

②平成31年（令和元年）

◎フォローアップ講座1

講師：「NPO法人好きっちゃ北九州」入門真生氏

第1回講座〈前年度講座の振り返り〉

前田第3自治区会防災講演会を実施。

第2回講座〈火災・防災合同訓練〉

地域57名、センター利用者16名、計73名が訓練に参加。

(第1部)八幡東区消防署員指導。センターの調理室から出火したとの想定で避難訓練を行った。消防署員による火災についての講義、水消火器の指導があった。

(第2部)「NPO法人好きっちゃ北九州」入門真生氏講演。地域全体での振り返り講座を実施。

(第3部)食生活改善推進員がふれあい菜園（まちづくり協議会管理・運営）で採れたジャガイモ、玉ねぎを使用し、カレーライスを振る舞う。参加者は食事を終え、順次解散した。

第3回講座…予定していた合同訓練が、コロナ感染予防対策として緊急事態宣言が発出され講座の中止を余儀なくされる。

③令和 2 年

◎フォローアップ講座 2

＜コーディネーター＞「NPO法人好きっちゃ北九州」の入門真生氏・藤谷真利子氏

第 1 回会議＜平野地区防災計画の振り返り＞

前回作成した、防災計画の見直しが目的で、今年発生した台風時に困ったことや新たな課題等の意見交換を行った。コロナ感染症対策のため対象人数が絞られ、前田第 3・4 自治区会の町内会長や役員、社協の役員、民生委員・児童委員の 40 名が参加。

- ・現状の課題・懸念していることなどの検証
- ・避難すべき人の確認
- ・避難先と移動手段の検討

地形的に北九州は大雨を免れやすいそうだが、運悪く線状降水帯が発生した場合、大規模な災害が起きることも考えられる。参加者からいろいろな意見・アイデアが出され、有意義な会議となった。



＜19 時からの会議にも関わらず熱心に議論＞

第 2 回会議＜3 つのちえん“血縁”“地縁”“知縁”で自助の底上げを目指す＞

前田第 4 自治区会の東川頭町では、町内会長・防災委員・地区担当民生委員の 6 人からなる防災組織「東川頭お助け隊」を結成した。

東川頭お助け隊を中心に

- ・自治委員との情報共有による、避難困難者の把握と、縁故者への連絡体制の整備
- ・地域独自のハザードマップの補充・活用
- ・連絡網作成

など、避難困難者が確実に避難できるように取り組んでいる。

また、住民の防災意識調査を実施するなど、家庭訪問をしながら情報を把握し確認を行った。

第 3 回会議＜より実践的な防災計画案へ！＞

- ・平野市民センターの避難者受け入れ態勢表を作成
受け入れ可能世帯は 74 世帯（148 人）、2m×2m を基本とし、1 世帯 2 名で算定
- ・使用する部屋の受け入れ順を検討
- ・館内に常備している資材を活用する
- ・ペットもケージに入れ一緒に避難可能とする
- ・足腰の悪い方への配慮

④令和3年

第1回講座

「感染症対策を踏まえた避難所運営講習会」開催。第1 薬科大学教員による「感染症対策を踏まえた公民館の避難所運営講習会」を実施。備蓄品等運営開設における設備を見直し、準備を行う。

第2回講座 講師 福岡管区気象台 気象予報士

「台風に備えて」、「大雨に備えて」、「地球温暖化について」をテーマとした内容で講演を実施した。

3 事業の成果

避難所運営の方針の作成・「平野防災の取り組みコーナー」の設置・毎年6月の防災訓練の実施について関係者の合意を得ることができた。

一連の防災会議・講座を通じて「防災の取り組みは、まず日頃のご近所づきあいから始まる」を実感した。「避難する・しないの選択は、個人の死生観に関わることでもある。避難しながらない住民の理由を理解しその上で助けようとする地域住民の思いが今後の地域の安全・安心に繋がり、「このまちに住みつづけたい 住んでよかった そんなまちでありたい」が実現できるものと思われる。地域で結成された「東川頭お助け隊」はその思いを表す結果となった。

4 今後の課題

平野地区は役員の方々の熱心な活動により、防災の取り組みが順調に進捗しているが、現役員・組織の高齢化に伴い将来の活動量の低下が懸念され、次世代の地域活動の担い手の発掘が課題であると言える。そうした中、様々な行事の活動拠点となっている市民センターの役割が今後ますます重要になると思われる。そこで館長として地域コミュニティ活動の活性化を促し、若い人たちが自然に地元のまちづくり活動に取り組んでいけるような雰囲気づくりに努めていきたい。

【 SDGsターゲット 】

- 11.5 2030年までに、貧困層及び脆弱な立場にある人々の保護に焦点をあてながら、水関連災害などの災害による死者や被災者数を大幅に削減し、世界の国内総生産比で直接的経済損失を大幅に減らす。
- 17.17 さまざまなパートナーシップの経験や資源戦略を基にした、効果的な公的、官民、市民社会のパートナーシップを奨励・推進する。



市民太陽光発電所・市民還元事業～地域で育む「未来の種」事業

やっぱり！みんなで！あそび隊！！

～自然から学ぶ生きる力～

北九州市立足原市民センター

館長 樋谷 美緒

1 小倉北区足原校区の概要

北九州市は本州と海を挟んだ九州の玄関口に位置する人口93万人の政令指定都市です。小倉北区は北九州市の中心地区で足原校区はその北区の東部に位置します。また、交通の便の良さに加え、東に足立山を仰ぎ山麓に桜の名所足立公園平和公園を擁する緑豊かな環境で足原市民センターは校区のほぼ中央に立地しています。(世帯数 5,452 世帯 高齢化率 29.5% 子どもの割合 13.4%)



2 背景・課題

コロナ禍でのマスク着用は表情が見えにくく、また、コミュニティーが閉ざされつつある現状は、孤立を招き子どもの成長に大きく影響します。自身で考え選択しながら歩いていく未来を担う子どもたちに必要なことは、より多くの感動や体験活動です。また、地域の中で子どもたちの心の成長を育む活動はシビックプライドを醸成し循環型の持続可能な地域づくりとなります。市民センターだけではなく地域を巻き込んだ子育て支援が重要だと考えます。

3 事業に至るまで

足原市民センターが事業を受けるに関し、地域ぐるみで行うことを必須に考え、まちづくり協議会会長に相談し、子ども部会に提案しました。「子ども達をおもいっすり遊ばせたい」と意見はすぐにまとまり「自立したキャンプ活動」を目標に定め、野外活動を重視した7回の講座を企画しました。自然の中で自分たちの力で学び得る楽しさ、感動、協働力、判断力、自立性、そして生きる力をこの講座で育みます。

《協力団体等》

足原校区まちづくり協議会役員・子ども部会
足原小学校おやじの会・地域ボランティア
(子ども部会には、小、中学校 PTA 会長・小学校おやじの会会長・主任児童委員が入っています)

○実施にあたり、以下の事を約束事としました。

- ・子どもの自主性を育むため大人が手を出しすぎない。
- ・大人は回ごとに担当を持ち、手伝うという意識ではなく全員が主役となるようそれぞれが得意分野を活かし運営の役割を担う。



- ・地域と子どものつながりを深める為、特別な理由がない限り保護者不参加とする。

4 事業の内容

予定	変更	内容	目的
1 7月10日(土)		オリエンテーションとピッコロで昼ごはん 保護者会(別室)	多世代交流の仲間づくりを行う
2 8月22日(日)	11月13日	おもいっきり遊ぼう外あそび 講師:ONEキッズ先生	外遊びからコミュニケーション力、 創造性、判断力を高める
3 9月11日(土)	12月4日	山登り	決まりを守り、目標を達成する経験 を積む。班で協力し絆を深める
4 9月25日(土)	10月2日	キャンプに向けてとピッコロで昼ごはん	キャンプに必要な知識、心得を学ぶ
5 9月26日(日)	中止	デイキャンプ	学んだことを活かす。役割をもち、 支え合いを学ぶ
6 10月9日(土)		お泊りキャンプ	学びと経験を活かし、自ら行動できる 自立心、協働力を育む
7 10月10日(日)			

変更欄：緊急事態宣言により延期または中止

※ピッコロとは

足原校区まちづくり協議会主催の子ども食堂。概ね第2土曜日に昼ごはん(100円)第4火曜日に朝ごはん(無料)を市民センターにて実施しています。

5 申込み方法・参加人数(学級制)

足原小学校全児童にチラシを配布参加条件に保護者会出席、同意書提出を必須としました。

- ・参加人数 31名
(男子12名・女子19名)
(低学年23名・高学年8名)

6 予算

参加費1000円でキャンプ食材、お泊り時のシーツ代等に予算をとり、保険代、用紙代等は事業予算より支出。

7 実施講座

第1回 オリエンテーションとピッコロで昼ごはん(10時~13時)

目的:仲間づくり

遊びや食事を共にし、コミュニケーションを深める時間としました。また、別室にて保護者会を開催し講座の内容や意義、同意書の再確認を行い、キャンプ前の健康調査票の提出も併せて説明を行いました。



第2回 キャンプに向けてとピッコロで昼ごはん（10時～13時）

目的：キャンプの知識と心得を学ぶ

キャンプでの役割分担や安全に過ごす手法をみんなで考え学びの時間を過ごしました。未来の種から一人ひとりの未来の花が咲くように花づくりも行いました。



第3回 お泊りキャンプ1日目（13時～）

目的：学びと経験を活かし自ら行動できる自立心、協働性を育む

足立青少年自然の家まで30分かけて皆で歩き、到着後はおやじの会による忍者修行食材そう奪戦を実施しました。班で作ったカレーを食べた後は、キャンプファイヤーを行いました。火を見つめる時間は、子どもも関わった大人も皆、心が一つになったように感じました。また、出発時、泊りを躊躇していた男の子の発言「ゲームができないし、いやだな。」が夜には、「ずっとこの時間が続いたらいいな。最高だね」に変化しました。

食事、歯磨き、消灯時は、特に感染症対策を慎重に行いました。



第4回 お泊りキャンプ2日目（～10時）

各々手作りしたサンドパンを持って足立公園展望広場まで30分かけて歩き、朝ごはんを食べました。

葉っぱ探しなど自然の中の遊びを皆で楽しみました。



第5回 おもいきり遊ぼう外あそび（10時～13時）

目的：創造性、判断力を高める

ONEキッズ先生を講師にお迎えし、足原小学校運動場にて開催。体全身を使ってのリズム体操やおもしろリレー、しっぽ取りなどおもいきりグラウンドを走り回り外遊びを堪能しました。



第6回 山登り・オリエンテーション（9時～12時半）

目的：決まりを守り目標を達成する経験を積む。

班で協力し、絆を深める

小文字山頂上まで約1時間かけて皆で登りました。地元の魅力と仲間との時間を十分に共有しました。

オリエンテーションでは子ども達が手をあげて感想を発表したり、関わった方々にお礼を伝えました。



8 講座の工夫（書き出しの活動）

体験活動に加え、書き出すことを意識して行いました。その時の気持ちや考えを書き出すことで考える力を育みしっかり自分自身を見つめる時間としました。

- ・未来の花づくり：種用の用紙に「これから楽しみなこと」双葉に「自分の好きなところ」花に「将来の夢」を記入。またキャンプ後に班メンバーの「良いところ・好きなところ」を葉っぱに書き相手に渡し組み合わせて一つの作品を完成させました。
- ・メッセージカード：最終日、感謝の気持ちを伝えました。



9 講座を実施して感じたこと（成果）

コロナ禍の中、地域の様々な世代の方が関わり講座を実施することができました。第1回のよそよそしかった子どもたちも回を重ねるごとに笑顔があふれ、班がまとまり自ら考え行動する力がつきました。子ども達が変化した大きなキッカケはお泊りキャンプでの経験だったと思います。ともに力を合わせ、時に大人に怒られながら我慢と努力に加え、活動をおもいっきり楽しみ、ともに過ごした活動はかけがえない時間となりました。キャンプ後、実施した外あそびでは、班での行動もあきらかに変わりました。子ども達からも、次年度の役割や卒業後ボランティアとして参加したい等の声がありました。遊びを通し、大きな成長が見られました。

また、関わった大人も共に楽しみながら活動したことで、結束力、信頼関係が深まり、地域を支える人材としてより大きな輪が広がっていく良い契機となりました。

子どもにとって遊ぶ経験は生きる力となり、関わる大人は子ども達から希望をもらい、活動から多くの縁が繋がりました。子どもが地域とつながり育っていく、まさに世代でつながりつなぐ循環型の持続可能な地域づくりであり、すばらしい校区の底力を実感しました。

10 講座を終えて（課題）

まちづくり協議会をはじめ地域の方々と共に作り上げていく継続的な体制づくり、また、費用についても自主的な活動となるよう検討が必要と考えます。また、若い世代の方々もボランティアとして参画し講座を支えていただきましたが、仕事をしながらの講座実施に加え、会議等の時間調整の難しさを実感しました。会議内容の充実を図り、さらにリモートを取り入れるなどスタッフ間での密な体制づくりに力を注ぐ事も大きな課題です。

今後も多世代でつながる地域づくりに尽力し、更なる持続可能な活力ある校区を目指します。




足原市民センター
Facebookで講座を
掲載しています。

参考資料

地域で育もう
「未来の種」事業一覧

【参考】令和3年度 地域で育もう「未来の種」事業一覧

No.	区	市民センター名	事業名	SDGs	連携団体	予定回数	定員	予算額(円)	参加対象	コーディネーター	目標
1		清見市民センター	★ふしぎ発見★きよみ探偵団出動！！ ～まちの中のお地蔵さんを探し、その謎を解け～		清見まちづくり協議会	9	15	140,700	壮年 高齢者 小学生	KID's work代表理事 歴史愛好家 陶芸家	地域を深く知るために、清見市民センターと清見まちづくり協議会が主体となり、「お地蔵さん探し」「お地蔵さんマップ作り」「お地蔵さん作り」「きよみお地蔵さん新聞作り」に取り組む。
2		西門司市民センター	西門司たんけん隊「じーもクラブ」		好きっちゃ北九州 西門司校区まちづくり協議会	5	20	128,000	小学生	好きっちゃ北九州副理事長 ジオ&バイオ研究会 西門司市民センター職員	自分たちの住んでいる町にも長い歴史があり、今も歴史は刻まれ未来へと繋がっていく。校区というフィールドを学習の場とし、より深く知るところを第一の目標とする。地域の移ろいを知る小学校の大先輩である地域ボランティア講師から地域の歴史を継承する。また、講師との共通認識である「西門司小学校校歌」を学習媒体とし自分たちの手で歌詞の中にある校区ゆかりの地を検証。その後、史実を紙芝居化していくことで理解を深める。
3	門司	萩ヶ丘市民センター	「小学生あそびフェスタ」 ～伝統文化から生まれるクリエイター～		萩ヶ丘まちづくり協議会 萩ヶ丘市民文化祭実行委員会 戸ノ上中学校	6	18	102,700	青年 壮年 高齢者 乳幼児 小学生 中学生 親子	キャプテンタイガー 祝金獅子会 生涯学習推進コーディネーター	①安全な活動を実施する。 ②小学生は講座を受けるだけでなく、コーディネーターの指導で、子どものイベント企画運営にも挑戦。「あそびフェスタ」の実行を集大成とする。 ③日本の伝統文化の学びとして五穀豊穡、祝いの「獅子舞」をイベントに招聘。実際の獅子舞鑑賞のあと、エコな材料で獅子舞のおもちゃ工作をする。 ④講座の運営を、中学生のボランティアの機会とする。
4		大里南市民センター	未来のたね 大南キッズ		大里南小学校 大里南まちづくり協議会	5	30	49,700	高齢者 小学生	九州電力(株)北九州支店 原子力広報防災担当課長 大里南市民センター館長 NPO法人フードバンク北九州 ライフアゲイン理事長 NPO法人好きっちゃ北九州副理事長 環境局循環監視課 栄養士	小学校での総合的な学習で取り組む環境学習や防災、食育などを地域や市民センターが支援し、講師の派遣や講座開催の手助けをする。
5		松ヶ江北市民センター	レッツ！畑プロジェクト		松ヶ江北まちづくり協議会 松ヶ江北放課後児童クラブ 門司障害者地域活動センター 門司ヶ関学園	4	20 ～ 60	56,000	青年 壮年 高齢者 乳幼児 小学生 中学生 高校生 親子	ふれあい農園委員 校区会長 館長	・ひまわり畑～地域みんなで花の成長を見守り、咲いたときには思い出づくりに写真を撮る。 ・麦畑～麦を食べられるところまで体験し、自然の豊かさや食の有り難さを実感する。
6		足原市民センター	やっぱり！みんなで！あそび隊！！ ～自然から学ぶ生きる力～		足原校区まちづくり協議会	6	30	142,700	小学生	足原校区まちづくり協議会子ども部会会長 キャンブインストラクター 足原小学校PTA会長 ONEキッズ先生 足原校区まちづくり協議会子ども部会副会長	・野外を教場とし、キャンブスキルの基本を習得する。 ・その学びと経験の循環により、責任感、創造性、自立性を育て、自ら行動できる力、協働する力を身に付ける。 ・地域の方々との交流により、子どもを見守る目を増やし、シビックプライド醸成につなげる。 ・キャンブスキルの向上のための第1歩とする。
7	小倉北	北小倉市民センター	人情下町北小倉 つながろう！楽しもう！汗をかこう！		北小倉公園愛護会 健康づくり推進員の会	3	20	114,600	壮年 高齢者 小学生 中学生 親子	長寿会会長 市スポーツ推進員	・年長者との、さざんか公園、櫛山荘公園での清掃活動を通して、地域や地域の人々への愛着を深めると共に、地域のために汗を流すことの大切さを実感する。 ・公園の掃除の仕方、グランドゴルフの進め方等を理解し、自分たちでもできるという気持ちやこれからもやってみようという気持ちを持つ。 ・年長者への親しみの心や尊敬の念、いたわりの心を持つ。

No.	区	市民センター名	事業名	SDGs	連携団体	予定回数	定員	予算額(円)	参加対象	コーディネーター	目標
8	小倉北	南丘市民センター	がおかっ子が咲かせるBOOKワールド		こぐまのひろば 絵本ボランティアこぐまの文庫 まちづくり協議会ほたる部会 サタデーサロン	4	14	142,700	小学生 中学生	クエスト小倉本店店長 PERFECT+WORDSTUDIOS講師 詩人・アーティスト 元中学校教諭	子ども達が自ら読書に親しみ、進んで読書習慣を身に付けていけるよう、子どもの興味・関心がありそうな英語体験や現場体験・絵本作りなどを取り入れ、読書習慣の大切さを改めて感じてもらう。情報社会では学ぶ事のできない、活字、本の良さを子ども達一人一人に再度感じてもらえるような学びの場とする。 又、地域で積極的に活動している方と南丘の特性、地域性を活かした事業で交流する事により、子ども達に我がまちの仕組み・良さを理解してもらい、今後の地域活動に子ども達が自ら率先して参加したいと思ってもらえるような意識向上を図る。この事業に関わる地域住民が一丸となって、よりよい南丘の新しい子ども育成の環境づくりの一歩とする。
9	小倉南	長尾市民センター	たのしく★まなぼうさい ～リーダーは君に決めたッ!～		長尾校区まちづくり協議会 うりぼうボランティア NPO法人KID's WORK NPO法人好きっちゃ北九州	13	22	149,000	小学生	特定非営利活動法人KID's work代表理事 センター館長 うりぼうボランティア NPO法人好きっちゃ北九州理事長	防災の意識づくり。様々な体験を通して、自分の命を守ることを考える。
10	若松	赤崎市民センター	ホップ・ステップ・あかさき未来塾		小石・赤崎校区まちづくり協議会 小石・赤崎校区文化伝承の会 子育て支援グループ「わんぱくひろば」 響灘ビオトープ	11	25	142,000	青年 壮年 高齢者 乳幼児 小学生 中学生 親子 その他	響灘ビオトープ園長 小倉そば塾塾長 小石・赤崎校区まちづくり協議会会長 若松消防署予防課 ㈱タカミヤフィッシング推進課 小石・赤崎校区文化伝承の会 チャレンジエコクラフト Say! 輪代表	地域団体との交流の機会を増やし、ものづくりや職場体験・伝統行事を学び、子どもの心身の成長につなげ、子どもであっても地域の一人であることを自覚する。大人たちが次世代に伝えることの大切さに気づく。
11	八幡東	枝光南市民センター	世代・役割を越えて地域の宝を育てよう!		枝光一区まちづくり協議会・育成会・子ども会	9	20 ~ 100	80,700	青年 壮年 高齢者 小学生 中学生 高校生	料理研究家 手作り講師 前枝光一区まちづくり協議会会長 青少年育成会会長	①地域の宝である子ども達を育むための活動やその活動の意義を地域に周知させること。 ②地域の各団体が協力しながら活動を実施することで活動を年間行事として位置付け継続する足がかりとなること。
12	八幡東	八幡大谷市民センター	スーパーシティで育つ! ~脱炭素にチャレンジ~		北九州市立大学 NPO法人里山を考える会 トヨタ自動車九州 エックス都市研究所 八幡大谷まちづくり協議会 中央第一社会福祉協議会	7	15	139,700	小学生 中学生	NPO法人里山を考える会 エコタウンセンター 公益社団法人無人機研究開発機構理事 八幡東田まちづくり連絡会会長 トヨタ自動車九州 北九州市立大学教授	地球温暖化の現状を知る。脱炭素社会を実現するための取り組み・技術開発について学習する。実際に見学や専門家の話を聴くことで興味をもつことにより自分たちが住むまちに関心をもち、問題意識を持ってもらう。
13	八幡西	浅川市民センター	未来の種「浅川こども演劇教室」		浅川まちづくり協議会	17	18	142,700	青年 小学生 中学生 高校生 親子	浅川まちづくり協議会会長 こども演劇教室 「てあとる☆もんど」代表 浅川まちづくり協議会 青少年育成部会会長 浅川市民センター館長	演劇を通して、言葉の力を理解し、「集中力」「表現力」「創造力」「自己認識」「協調性」を育てる。「自分の意見が言える」「人の話が聞ける」子どもたちを一人でも多く増やし、コミュニケーション能力の習得につなげることを目標とする。 また、自分と価値観が違う他者との係わり、家や学校以外の場での親以外の地域の方との係わりを通して人間形成を構築していく。
14		永犬丸市民センター	グローイングシーズ永犬丸		永犬丸まちづくり協議会等	7	25 ~ 30	142,700	青年 壮年 高齢者 小学生 中学生 高校生 親子	地域ボランティア (八幡西カヌークラブ、永犬丸地区老人会、永犬丸まちづくり協議会、永犬丸まちづくり協議会健康づくり委員会)	スポーツやものづくり等の体験活動や奉仕活動を通して、地域の方々との人間関係づくりを図る。 地域の方と小学生を中心に中学校や近隣の高等学校に呼びかけ、活動を通して地域に住んでいる年長者に畏敬の念を養うと共に、地域活動に興味をも地、市民センターを身近に感じ、シビックプライドを育成することを目標とする。

No.	区	市民センター名	事業名	SDGs	連携団体	予定回数	定員	予算額(円)	参加対象	コーディネーター	目標
15	戸畑	中原市民センター	子どもたちの生きる力を育もう、未来のリーダーへ	 質の高い教育を ジェンダー平等 まちづくり 平和と公正	中原まちづくり協議会 子育て支援団体	10	20	122,700	小学生	KID's work代表理事 子育てネットワーク代表 まち協子ども部会長 まちづくり協議会会長	未来を担う子どもたちの健全な発達・育成に向けて、市民センターが中心となり、まちづくり協議会、子育て支援団体など地域の方々と協働で、様々なことを体験し学ぶことで、日本の伝統行事や文化を知り、異学年の子どもや世代間交流を深めていくことを目標とする。
16		東戸畑市民センター	日本の文化 体験隊！	 質の高い教育を 産業・技術革新 まちづくり	東戸畑まちづくり協議会	6	20	99,700	小学生	戸畑祇園西大山笠 紙芝居師 料理研究家 東戸畑食生活改善推進協議会会長 福岡県立戸畑高等学校茶道部顧問 まごじ工房	子ども達が戸畑の伝統文化や日本の食文化等を地域住民と共に知り、体験することによって、日本文化の良さを知り、地域への理解を深めることを目標とする。
17		牧山東市民センター	知らないことを体験し未来の自分に種をまく ～未来へはばたけ！ジュニアヒーローズ～	 健康と福祉を 質の高い教育を 不平等をなくす まちづくり 平和と公正 パートナシップ	牧山東まちづくり協議会 牧山東地区社会福祉協議会	8	15	96,700	小学生	絵本講師 介護福祉士 北九州市社会福祉協議会 まちづくり協議会会長 牧山東民生児童委員会会長	①昔遊び等で高齢者と繋がり、楽しい思い出をすることで今後自発的に交流・支援していく意欲を高める。 ②高齢者体験を通して、高齢者の身体がどのように変化していくか、またその時の気持ちを想像することで思いやりや優しさを育む。 ③車椅子の使用や一緒に歩く時の注意点などを学ぶことで危険予知力をつけ、認知症サポーター講座を受講することで家庭や地域の高齢者と関わっていく能力を養う。 ④高齢者施設のことやそこで働く人の話を聞くことでいろいろな仕事があることを知り、介護ロボット等の福祉機器を見学・体験することで、エッセシャルワーカーやものづくりへの興味が芽生え未来への夢を育む。